

もっと外国人観光客が 来る島に

沖縄観光が好調だ。特に外国人観光客の増加が著しく、今後は国内観光客よりも増加が見込めそうだ。今回は外国人観光客の消費動向を分析することで、沖縄の外国人観光客による観光収入増加へ向けた取り組みについて考えてみたい。

観光客数だけでなく 観光収入を増やそう

沖縄を訪れる観光客数は2013年度に640万人を超え、2014年度は700万人を超えた。今年4月以降も毎月、前年比10%程度で増加している。なかでも、目覚ましい増加が見られるのが海外からの観光客で、沖縄を訪れる外国人観光客数は、2014年度に約99万人となり、今年度、100万人を突破するのはほぼ確実であろう。この「100万人」という数字は、世界の観光市場においてどのような位置づけなのだろうか。

沖縄観光を考察する上で、たびたび比較対象となるハワイの外国人観光客数は、271万人。観光客数世界一のフランスは8,473万人にもものぼる。沖縄より面積の小さい香港やシンガポールでも2,566万人、1,190万人となっている。現状では、世界の観光市場に沖縄が肩を並べるにはまだ時間がかかりそうだ。

沖縄観光の課題の1つに、観光地での消費額が低いことがあげられる。2013年度の沖縄県の調査によれば、沖縄を訪れる外国人観光客（空路）一人当たりの消費額は96,548円である。一方、世界で最も観光地として消費単価が高いのはアメリカで3,078ドル。フランス以外は総じて1,500ドル以上を消費している（図表1）。観光収入で比較すると、先に紹介したハワイ、香港、シンガポールは沖縄に比べ、それぞれ9倍、49倍、22倍でその差は圧倒的だ。この消費額の違いはいったい何によるものなのであろうか。各種調査で言われているの

は、滞在日数の違いだ。

2014年度沖縄県の調査によれば、外国人観光客の平均滞在日数は3.7日。ハワイでは9.9日（空路のみ、2014 Annual Visitor Research Report）で沖縄の約2.7倍である。

図表1：世界の外国人観光客市場の比較

国名	観光客数(万人)	人口(万人)	観光収入(100万ドル)	消費単価(ドル)
沖縄県	99	142	797	805
香港	2,566	726	42,570	1,659
シンガポール	1,190	549	19,057	1,601
ハワイ	271	142	6,093	2,248
アメリカ	6,977	32,071	214,772	3,078
フランス	8,473	6,421	66,064	780
中国	5,569	136,782	56,401	1,013
タイ	2,655	6,866	46,042	1,734
オーストラリア	638	2,359	33,376	5,231
日本	1,036	12,706	16,865	1,628

注：観光収入の算出方法について、沖縄県とそれ以外の国・地域では違うため、沖縄県のデータは比較のための参考値。1ドル=120円で換算している。（出所）沖縄県、World Economic Outlook Database, April 2015, Hawaii Tourism Authority 等

沖縄にハワイと同じく9.9日滞在とすると仮定してみると、96,548円×2.7(倍)=26万680円でドルに換算すると2,172ドル(1ドル=120円換算)となり、表中のハワイの消費額2,248ドルに近似する。滞在日数を増やすことができれば、消費額も増加する可能性は大きい。また、同調査によると外国人観光客の消費額の中で、宿泊費と飲食費を合わせた額が全消費額の45.4%を占め（図表2左）、これは滞在するための額である。滞在日数を増やせば、宿泊費や食費などで消費額が増える可能性は大いにありそうだ。

図表2：消費額に関するデータ

国名	全体		国名	宿泊費+食費の割合	
	金額(円)	割合(%)		金額(円)	割合(%)
宿泊費	22,476	23.3	台湾	33,581	34.8
土産買物費	33,150	34.3	韓国	41,535	54.4
娯楽入場費	5,737	5.9	香港	60,550	49.2
飲食費	21,392	22.2	中国	36,232	23.8
県内交通費	10,880	11.3	その他	51,324	48.5
その他	2,914	3.0	全体	43,868	45.4
消費額計	96,548	100.0			
宿泊+飲食	43,868	45.4			

(出所) 沖縄県「2013年度外国人観光客実態調査報告書」

沖縄観光は消費しにくく 短期滞在型

観光地では、一般的に財布のひもが緩み、おいしいものを食べたり、お金を払ってでも普段できないことを経験したいと思うのが一般的であろう。そこで、消費という観点から沖縄観光を見てみよう。

沖縄本島の中北部に多くのリゾートビーチ・ホテルはあるものの、周辺にあるのはコンビニや居酒屋程度。他の観光施設等が近隣にないケースが多く海で遊ぶしかなく、夜に遊べる場所もないため、消費したくてもできない環境にある。

美ら海水族館や首里城などの人気スポットや「グスク」などに代表される世界遺産は本島各地に点在している。そこに立ち寄っては記念写真を撮り、また次のスポットに向かう、という観光スタイルが可能になっている。那覇市周辺は買いものスポットはあっても、のんびりくつろげる場所が少ない。沖縄観光は、長期滞在を前提とした仕組みづくりが不十分なため、結果的に数泊の短期滞在型中心の環境になっているのではないかと。

中国人観光客爆買いの効果は？

今、沖縄を含め日本では中国人観光客の「爆買い」が話題になっているが、このような状況はずっと続くのだろうか。図表2右は、国・地域別の観光消費額における宿泊費と食費の割合だ。中国人観光客の場合23.8%で、全体の45.4%に対し約半分だ。ちなみに、中国人観光客の一人当たりの消費額は15.2万円。土産買物費が8万円消費額の約半分を占める。土産物の多くは県内では生産されていないこと、先に述べた沖縄とハワイの消費額の分析と考えあわせれば、中国人観光客の「爆買い」が、沖縄経済に与える影響はイメージされるほど大きいとはいえない。

欧米の観光客を呼ぼう！

図表3は、海外旅行における国民一人当たりの観光支出額である。上位はオーストラリアや欧米諸国が中心で、沖縄の観光関連の統計ではあまり見ることのない国々だ。彼らの志向の特徴は、その土地の文化や歴史に興味を持ち、また実際に現地の人々との交流を求めていることにある。買い物目的が多いと思われる中華系の観光客とは対照的だ。

図表3：国民1人あたり観光支出額

順位	国名	観光支出額(ドル/国民1人あたり)
1	オーストラリア	1,223
2	ドイツ	1,063
3	カナダ	1,002
4	イギリス	821
5	フランス	665

(出所) UNWTO Tourism Highlights 2014 Edition

アジアには欧米から観光客が訪れる国々が多く存在する。タイの事例から彼ら呼び込むヒントが得られそうだ。

タイを訪れる外国人観光客は2,700万人あまり。オーストラリアや欧米から長期滞在の観光客を引き付けるのは、世界的に確立されたタイの観光資源である。プーケットなどのアイランドリゾート、アユタヤなどの世界的に有名な歴史的建造物、トムヤンクンなどのタイ料理、安くて美味しい屋台などが存在する。タイや他の東南アジアで人気の観光地には、時間をかけてでも行ってみたい歴史的建造物が数多くあり、必然的に滞在日数が長くなる。日中は観光地巡り、夜は屋台街や繁華街で楽しむことができ、長期間滞在できる環境が整っているといえそうだ。

オーストラリアや欧米からの観光客にとって、アジアまでは遠く、長期滞在するだけの魅力がなければ来てくれない。タイやアジアの観光地には彼らの要求に応えるだけの要素があるのだ。

では、沖縄はどうだろうか。これまで述べてきたように、結果的に短期滞在型の環境ができあがり、独自の文化や歴史があっても、欧米人を含めた外国人観光客向けの魅力づくりは不十分なままだ。

これからが沖縄観光の正念場

2020年の東京オリンピック控え、沖縄を含め日本に対する外国人観光客の興味は一層高まるだろう。国や地域ごとの観光客の志向を理解し、応えていくことができれば、より多くの国々から観光客が来てくれるのではないだろうか。

(海邦総研事業支援部研究員/中山禎)